

Title	IT企業のITマネジメント - ソフトウェア産業におけるCIOアプローチとCTOアプローチ -
Sub Title	
Author	大田浩(Oota, Hiroshi) 柳原, 一夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2000
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2000年度経営学 第1579号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002000-1579

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

所属ゼミ	柳原 研究会	学籍番号	89928203	氏名	大田 浩
(論文題名)					
<h2>IT企業のITマネジメント</h2> <h3>—ソフトウェア産業におけるCIOアプローチとCTOアプローチ—</h3>					
(内容の要旨)					
<p>一般の企業(製造業など)では、ITは活用すべきツールとして意識されているが、IT企業(ソフトウェア産業など)にとっては技術(R&Dの対象)そのものである。したがって、IT企業は、この二つに競争優位性の源泉を求められるはずである。</p> <p>イノベーションの萌芽は、Disruptive Change である。</p> <p>「利益なき繁忙」から「イノベーション経営」へとシフトするためには、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) プロダクト・イノベーション(PDI) 2) ビジネスプロセス・イノベーション(BPI) 3) ビジネスモデル(ビジネスアーキテクチャ)・イノベーション(BMI) <p>が必要である。</p> <p>PDIとBPIは実行のイノベーションであり、BMIは計画のイノベーションである。</p> <p>PDIについては、技術に対する技術者と利用者のメンタルモデルのギャップをどう埋めるかがカギであることが示された。このような技術と市場の「共進化」は、「技術者のマーケティング」だけでは達成することができない。</p> <p>BPIについては、ITユーザーと同様に、システム・アプローチと組織学習による、フロー型のビジネスプロセスからストック型のビジネスプロセスへの進化が必要であるが、ITベンダーが自らの顧客に推奨するはずの情報技術イネーブラーよりも、軽視しがちな組織的・人的資源イネーブラーのほうが、差別化のカギであることが示された。</p> <p>BMIについては、テクノフロー(技術フロー)型ビジネスモデルとテクノストック(技術ストック)型ビジネスモデルのハイブリッド化がカギであること、そのためにはCIOとCTOのチーム的リーダーシップが必要なが示された。</p> <p>イノベーションのシーズを市場に結実させていく中で、イノベータは学習する。偶然・必然にかかわらず、イノベーションのシーズがシフトもしくは好循環を始めている。</p> <p>とかく、イノベーションというと、プロダクト(製品・サービス)ばかりに気を取られがちであるが、シーズはビジネスモデルやビジネスプロセスの中にもあることを読み取ることができる。</p> <p>重要な点は、Disruptive Innovation だけではフロー型の競争優位性しか築けないことである。前述の学習によるシーズのシフト・好循環を通じて、ストック型の競争優位性が構築可能と考える。</p> <p>また、インフォメーション・テクノロジーと組織テクノロジーのバランスのとれた活用によって、企業は進化していくようである。CIOやCHOの活躍が期待される場所であるが、それをチェックするのは、イノベータのリーダーであるCEOの責務である。</p> <p>ソフトウェアには、ハードウェア主導のものと、コンテンツ主導のものがある。前者のイノベーションは、1)→2)→3)の順で起き、後者のイノベーションは、3)→2)→1)の順で起きるのが一般的であることが推測された。</p> <p>日本のソフトウェア企業に欠けているのはBMIであり、これはビジネスモデルの「メタ認識」の難しさがその一因であること、また、ITガバナンスの未確立が合意形成を遅らせビジネスモデルの競争優位性を失ってしまうことが示された。</p> <p>最後に、「知的製造業」におけるCIO、CTO、CKOのリーダーシップがどのようなものであるかの仮説が提示された。</p>					